

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

おめんたし

二学期の終業式で今学期を振り返り子どもたちに話をしました。

- ①「楽しい学校」になるように、「すすんで学ぶ子」「仲良く助け合う子」「最後までがんばる子」をめざしてよくがんばったこと
- ②二学期にあった秋の遠足、社会科見学、山の学習、学校音楽祭、修学旅行、陸上記録会など、友だちと力を合わせてがんばれたこと
- ③「美しい学校」にしようと、ほとんどの人がおしゃべりをせずに一生懸命にそうじができたこと
- ④通知表に書かれたことをよく読んで、二学期の学習を振り返り、自分の努力を認め「やればできる!」と自信をもってほしいこと
- ⑤冬休みはクリスマスやお正月などの行事があるので、すすんで行事に参加して家族との楽しい思い出をつくってほしいこと

わたしが生まれ育った村は、総社市の一番北にあり、今は8戸ですが、当時は14戸の集落でした。農地を5反程度もっている家が4戸、2反から3反の家が3戸、自家用の野菜を育てる畑をもっているか全く農地をもっていない家が7戸でした。我が家には3反の田畑がありましたが、食用の米と野菜を育てているだけで、農業によって所得を得ることはありませんでした。家々が家業を持っていて、さらに以前は、入会地で炭を焼き薪を作って総社や倉敷の町で売って生計を立てていたそうです。

大晦日の日に、子どもたちは手提げ袋をもって家々をまわりました。玄関先で、「おめんたし」と皆で声をそろえて叫びますと、家の人は、みかんやつるし柿、お餅をそれぞれの袋に入れてくれました。その行事も高学年のころには絶えてしまいました。

「おめんたし」とは「お前の足し」ということではないかなと思っています。農業収入が乏しい村ですから、家業の景気がよくなって正月の買い物が十分にできない家もあります。そんな家の子どもたちにもみかんや餅を分け与える行事だったように思います。なぜか年末になるとこのことを思い出し、一人で「おめんたし!」と口ずさんでみて、豊かではなかったけれども心やさしいおっちゃんやおばちゃんのことを思います。

楽しい冬休みにしてほしいと思っています。そして、1月7日に元気なみんなの顔を見るのを楽しみにしています。

